

## 理事長就任の挨拶

この度、令和2年6月より、宮城県葬祭業協同組合におきまして、前理事長である日下覚実氏の後を継ぎ、若輩ながら理事長に就任いたしました。歴史と伝統のある当組合の理事長の職に就くにあたり、その責務の重さを痛感しております。

さて、昨今の葬儀業界を取り巻く環境は実に目まぐるしく変化をしております。今まさに、新型コロナウイルスによって経済が大きくダメージを負ったなかで、組合に加盟する各社が経営を堅持しつつ、同時に地域における社会インフラとしての役割を果たさなければならない厳しい状況でもあります。



特に、当組合は2011年の東日本大震災における各自治体との緊密な連携を評価頂いた関係性から、今回の新型コロナウイルス関連につきましてもいち早く宮城県より物品の調達や多数の死者が発生した場合の対応策などについて協議をする窓口としての機能を十分に発揮しております。

そうしたなか、組合員の各社におかれましても、行政のガイドラインや全葬連から発信されている情報などを参考に、様々な感染拡大防止の努力と工夫を重ねておられることと拝察致しますが、今般の新型コロナウイルス感染問題によって葬儀の小規模化に大きな拍車がかかり、場合によっては従来のサービス内容のみならず、業態そのものにも変化が求められる事も考えられます。

しかし、我々は葬祭業として儀礼文化を尊重し、いかなる場合であっても亡き方を弔うという基本を守り続ける責務があります。これまで当組合の先達が築いてきた、儀礼における不変の姿勢を保ち、なおかつ改革すべき部分については、社会の変化にも対応できる柔軟性を持つという、相反する課題に取り組まなくてはなりません。しっかりとバランスをとっていきたいと考えております。

当組合が宮城県でもっとも信頼のおける葬儀業界団体であり続けるよう、かじ取りをすべく、取り組んで参りますので、組合員の皆様のご支援とご協力をお願い致しまして、ご挨拶に代えさせていただきます。

宮城県葬祭業協同組合  
理事長 菅原裕典